

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100691		
法人名	社会福祉法人あすなろ会		
事業所名	グループホーム高草あすなろ		
所在地	鳥取県鳥取市大柄330		
自己評価作成日	平成21年4月1日	評価結果市町村受理日	平成21年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	平成21年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

センター方式シートを使用することにより、以前と比べ利用者の出来ること、出来ないことを見極め、一人ひとりに合った声かけや援助が出来るようになってきた。
また、利用者一人ひとりの生活歴を把握し、それを活かしたケアも出来るようになってきた。
利用者の発言や行動、表情などから思いをよみとり、その思いに添った援助をするように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の人柄の明るさが施設全体に行き渡り、利用者や職員の表情、施設内の雰囲気さらに明るくしている。常にどこかで笑いがある中で、職員は常に利用者の様子に目や気を配っている様子がうかがえた。
広い敷地があるにも関わらず、集落内に畑を借り、地元の方々と交流しながら野菜作りをするなど、地域密着型サービスの意義を果たす努力をされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分達が将来どのように暮らしていきたいのか、自分の身に置き換えて、皆でつくりあげた。		職員みんなで考えた理念を常に念頭に置き、何か問題が起こったときには、その理念をベースに解決策を探るなどしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には入っていないが、地域の方から果物やお菓子をおすそ分けして頂いたり、地元の保育所との交流、地域の文化祭へ参加などの交流の機会をもうけている。		集落内の畑を借り、自然な形で地元の方々との交流を図っている、	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではグループホームでの利用者の様子を通して認知症の理解をしていただいている。また委員さんから貴重な意見をいただいている。		3ヶ月に一度、定期的開催し、まずは、グループホーム、認知症に対する理解を深めていただけるよう、情報提供等を積極的にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な事があつたら電話で相談をもちかけている程度である。		定期的に連絡を取っているわけではないが、相談事、わからないこと等があれば、いつでも尋ねられる関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや高草あすなる身体拘束ゼロ宣言に基づき、身体拘束しないケアに取り組んでいる。		玄関の鍵は夜のみ施錠している。常に利用者の動向に気を配り、外出したい様子のある方があれば、雨の日でも散歩に出るなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で「拘束ゼロ宣言」をし虐待防止に取り組んでいる。		/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についての勉強会を行い、理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時・契約時に事業所のケアに対する考え方や取り組みを説明し、退居も含めた事業所の対応可能な範囲について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見などを言うことが困難な利用者もおられる。行動、表情、ふとした言葉から思いを探り、職員同士で共有し、できるだけ思いに沿えるよう努めている。	日常生活を共にすることで、ほんの些細な表情や言葉から、利用者の思いを感じ取ることができている。家族とも、面会時等に積極的に話をし、要望を反映させられるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課、申し送り、介護士会等、それ以外にも随時話合っている。	管理者は常に職員にも気を配り、積極的に話しかけもしている。また、職員が相談事等を気軽に話せる関係性が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や資格取得へむけてのバックアップなど、向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加し、学ぶ機会を確保している。研修後、職員全員に報告し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の相互研修に参加したり、他グループホームのネットワークの会に参加し情報交換等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时より本人を交えてきてもらう。その後聞き取り等行い、グループホームでの暮らしが利用者さんにとって良いのか検討して入所となる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階からじっくりと話を聞き、介護の方法や社会資源のアドバイスをすることもあ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設での生活が困難な方には他のサービスの紹介等もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族が来所された際は、良いことも悪いことも含め、近況を報告し、対応方法等、共に考えたり、ケアを統一したりし、一緒に支えあっていく関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	料理や裁縫、畑など、それぞれの場面で利用者さんから教えてもらっている。一緒に笑い、一緒に泣き、怒って喧嘩したりと家族のような存在として生活している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や実家、いきつけの美容室に行ったりしている。また、併設施設を利用している知り合いの方に会いに行ったりしている。	買い物等は、できるだけ小さなスーパー等を利用し、顔なじみの関係を作っている。希望がある場合、行きつけの美容院に行くなどの支援も心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、一緒に楽しむ事が出来るように、食事、入浴時などの時に関わり合い職員が誘ったり、利用者に声を掛けてもらうなど、支え合ってもらえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も時々会いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを活用し、利用者の思いの把握に努めている。希望など言うことが困難な方には、特に利用者の立場で考え、思考の把握に努めている。	利用者の方々の好きなこと伸ばしを積極的に行っている。 また、センター方式シートを活用し、職員間での共有も図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家人や知人より情報をもらい、よりよく利用者さんが暮らしていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来る事、出来ない事を見極め、一人ひとりに合った声かけ、援助をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式シートを活用し、利用者の思いの把握に努めている。希望など言うことが困難な方には、特に利用者の立場で考え、思考の把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日誌やケース記録にケアや様子について記入したり、気になった言葉などを一人一人ノートに記入している。申し送り時に情報を共有している。それらをもとに介護計画ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望や状況により受診の付添い等や買い物を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌のボランティア、お話ボランティア、保育所交流、公民館祭への出品、防災訓練など地域の方に協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医に診察をしてもらっている。医師との情報交換として受診メモを活用している。	施設での利用者の細かな状況、また病院でも受診結果等を記入した受診メモを活用し、医師との情報交換、職員間の情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署の看護師と連携をとり困った事があれば、その都度指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	なるべく安心出来るよう面会に行っている。また、医療機関と情報交換を行い、早期に退院出来るように相談をもちかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては家族と話し合いを重ねかかりつけ医からの協力を得て方針を決めた。また職員間も話し合いを重ね本人にとって何が最善なのか考え続けた。	終末期のあり方について職員間で話し合い、その結果を家族の方々にも伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の講習を職員全員が受けている。急変や事故発生後に振り返りとして勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(防災)をおこなっている。その際には近隣の自警団、消防署の協力を得られるようにしている。	定期的に避難訓練等を行っている。地域の方々にも、協力を仰いでいる。	地域の避難場所等についても、職員全員に周知徹底して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報取り扱いには家人に説明し、理解を得ている。利用者の対応については、利用者1人ひとりの気持ちになり、声かけし、接している。	年上の方への敬意を忘れないよう、言葉遣いや態度を気をつけている。 常に、利用者の気持ちに立って言葉かけをするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの症状に合わせ、声かけに違いをつけ、本人の思いが表現出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、毎日その流れに沿うのではなく、利用者それぞれが、その日のやりたいことやそれぞれのペースで生活し、希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	若い頃から通う美容室でパーマ、カットをする利用者がいる。また衣服については本人が決める。理解できにくい利用者にはどちらかを選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に献立を決めたり、食事の準備、片付けをする場面が日常的にある。漬物、果物の選択も、利用者の意見を聞き、楽しいものになっている。	まさにみんなで料理を作り、おしゃべりを楽しみながら食事をし、そしてまたみんなで後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、摂取量をチェックし、なかなか摂取出来ない方には、甘みをつけたり、こまめに提供している。食事は栄養士の指導のもと提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後1人ひとりの状態に合わせて声かけや介助にてしているが、毎食後は出来てない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘予防として、水分量のチェック、散歩を心掛けている。また、トイレに行きたい仕草を把握したり、トイレ誘導が必要な利用者には時間を見計らってトイレ誘導を行い、なるべくトイレでの排泄を促している。	水分量や時間に注意しながら、トイレ誘導の必要な利用者には、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に水分と散歩に力を入れている。水分は毎日摂取量をチェックし、時にはゼリーに変えてみたり工夫している。散歩は個々の脚力に合わせて、施設内を歩いたり、外の散歩コースを歩いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴出来るようにしている。また、畑仕事の後など、希望時にも対応している。	いつでも入浴できる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、ソファや居室でゆっくりと休まれたりし思い思いにすごしておられる。夜間「寂しい」と訴えがあれば、添い寝をしたり、しばらく話をしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容(種類、量)の変更があれば、連絡帳に記入している。センター方式シートを活用し、目的や副作用等把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、食事作り、裁縫など、一人ひとりの得意な事を見つけ支援している。野菜の収穫や作品が完成した時は共に喜び、「今日の○○はおいしい。」とほめたりして、「良いところ伸ばし」をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、畑など自由に出かけられるようにしている。	散歩や畑など、いつでも自由に出かけられる支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員が管理しているが、家人の了解の元お金を所持している利用者もいる。買物の際には本人にお金を渡し支払いをおねがいしたり個々に合わせた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話できるようにしている。また手紙がくれば、返信するように促したり、出したい要望があればポストまで出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置物や季節の花を飾ったり、食器棚を置き、好きな時にお茶が飲めるように用意している。	季節の花や、利用者の作品等がさりげなく飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを置いており、利用者同士思い思いに過ごしている。又玄関先や洗濯干し場にベンチを置き、他事業所の職員、利用者とも話をしたり、コーヒーを飲んでくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく今までの生活ができるよう、使い慣れたタンス、置物などを持ってきて頂き安心して生活できるようにしている。昔のアルバムや家族写真を飾っている方もおられる。	使い慣れた家具が置かれている。掃除も行き届き、居心地の良い居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすい箇所に表札をつけ、その表札も利用者の分かりやすいものになっている。		